

平成二十七年十月十七日（土）
於、東京・神田 学士会館

第四十四回 全国短歌大会選歌集

主催 現代歌人協会
後援 朝日新聞社

第四十四回 全国短歌大会 入賞作品（応募者数五五六名 応募歌数二六七九首）

朝日新聞社賞

はねあげた水のごとくに影が降り逃げた小鳥は数へられない

宮城県七ヶ浜町 星 亜衣子

大会賞

「ありがたうございました」をひと晩ぶん投げかけたころ朝日がのぼる

広島市佐伯区 熊谷 純

鳥とまる人になりたい 鳥ならば人にとまらぬ鳥になりたい 名古屋市中種区 朝羽 いむ

入選作品の掲載順序は選者の五十音順、佳作は応募の受付順。

五十嵐 順子 選

選者賞

子を産んで人に預けて働いて税金納め輝けと言う

東京都練馬区 立花美和

佳作第一席

郭公の声を真似める児童らに教師の一人も加はりて鳴く

村上市飯野 阿部昌彦

佳作第二席

わが耳に届かぬながらとよもして白神山地の山毛榉芽吹きむ

弘前市富田 奈良弘子

佳作

若き日の妻を思へば微かにも麦の香のする四肢でありしよ

北九州市八幡西区 中村重義

いつまでも燃ゆる紅葉見せたくて墓参りさせる亡き父の知恵

東京都板橋区 桜井伊津美

「お母様、元氣、よかった」で切れしとふそれで十分九十才の友情

船橋市宮本 市瀬潤子

セシウムの測定終へたる洪柿を鼻歌交じりにさはす我妻

福島市上野寺 尾玉正敏

片膝を立てて鎌を研ぐ夫の背に近寄りがたきオーラただよふ

笠間市下郷 飯田初江

ひと夏の祭り盛りあげ首都圏に帰る若きら故郷を捨てる

青森市緑 齊藤守

ベトナムで骨を抜かれしノルウエー産さばがわが家の食卓にある

我孫子市寿 石河和子

鳥とまる人になりたい 鳥ならば人にとまらぬ鳥になりたい

名古屋市千種区 朝羽いむ

バス停にて人間失格を読む女生徒は顔赤らめてページを折った

川崎市宮前区 小角卓矢

八月の赤子寝かせし蚊帳なりき 十五歳がもぐる足裏を残し

橿原市白檀町 福田示知恵

ベルト上ひたすら歩くジムの窓ゆ春の天空へ昇る錯覚

名古屋市天白区 三好ゆふ

水道管取替工事終りたり寺僧のように道路を掃いて

町田市つくし野 岩本房子

有難う言ひつつ過す毎日に有難うよと言はれ度く居る

千葉県大多喜町 三上芳子

生命二つ出でて一歳若親の愛しとつつむ飛びはねる足

東大阪市横枕 磯和富子

震災を知らぬ真白き枕木も海浴いのレール支えておりぬ

東京都港区 中山一朗

新品のコンタクトレンズに変えた日はCGみたいにうそっぱいまち

小牧市梅ヶ丘 戸田響子

雨の日に濡れた袖口見て思う相合傘ならよかったのにな

東京都板橋区 杉本紘也

大野道夫選

選者賞

向きむきに黄帽子かぶり写生子らみな太陽を盗みて帰る

八戸市小中野 小間木 玲

佳作第一席

吾のみに癌告の兄ひげ剃らせその内奥にわれは立ち入る

東京都練馬区 山田 立美

佳作第二席

とぎれがちの会話の間にストローをグラスにまわし氷に喋らす

東京都国分寺市 森田小夜子

佳作

職退いて淋しき夜の茶碗酒猫はそろりと膝から逃げる

萩市大井 斉藤 定

アントニオ猪木のダーはダーウインの進化論を補足している

福島市松川町 安齋 義雄

口開かぬ浅淵に孫が問うている大人の梳を順に覗きて

鳴川市大川面 春木 敦子

シャボン玉握りしめ吾子ラッパ吹きのように世界に明日を奏でる

東京都足立区 小野 史

だらりとダチュラがあまた咲きてゐるわれの欲する弛緩のさまに

飯塚市口原 貝 島 信子

吾と妻二十四時間時差で生き格別困ることなき金婚

一宮市東島町 池野 武行

ロンドン塔の衛士にトーマス・モアのこと聞けば答へてサーと結べり

北九州市八幡西区 中村 重義

人型の棺の船で旅をせしわれにあらざや麻酔の針痕

静岡市葵区 柴田 和彦

アボガドの種をスプーンでえぐりつつ君の本音にふれないでおく

合志市須屋 藤原 さとこ

乗馬より自転車となり今散歩卒寿の夫のこだわりは靴

渋川市金井 中村 齡子

人生は普通が意外に難しいスルメと共に噛み締める呼吸

川口市南鳩ヶ谷 円谷 アンナ

ケシの実をかじるあなたの右肘にネギがついたら長袖を出す

福山市南蔵王町 打添 一成

紫陽花のとなりで君を待っている傘とわたしと雨と長靴

佐賀市久保田町 木下 美樹枝

のんのんと花かんむりを整へて白つめ草は身を乗り出せり

津市一身田 久間 恵美

絶え間なく再起動する脳みそのBGMは老教師の声

川崎市川崎区 成重 花鈴

われわれのノスタルジィを食いつぶし一層また一層伸びるビール

東京都渋谷区 栗生 えり

返信の途中に宅配便の来てまた迷い出す断りの手紙

東京都東村山市 岡本 和子

川野里子選

選者賞

「ありがたうございました」をひと晩ぶん投げかけた朝日がのぼる

広島市佐伯区 熊谷 純

佳作第一席

みんな言ってるみんなとは誰フェンスより吾れを見下ろす皇帝ダリア

豊中市寺内 今野 沙弓

佳作第二席

爆買いの後の空の棚埋める大人のオシメの淡き桃色

横浜市神奈川区 三浦美智子

佳作

卒業式終へたる学校もう食べたケーキを包むセロファンのやう

荒尾市荒尾 石塚 燈あかり

カーテンが地球に揺れる昼下がりに二十世紀の宅配届く

高槻市富田丘町 谷川 貞子

その幹は裏に回ると傷だらけ私が彼にしたことみたい

大村市玖島 横田 泉

ケータイの電池の減りが速いのはずつとこころに繋がっているから

香川県多度津町 藤岡 妙子

踏切の音のようだわ「既婚・未婚」そうよ踏切みたいなもんよ

川口市南鳩ヶ谷 円谷アンナつひらや

座れない帰路で夜景に寄りかかる疲れた顔を貫く光

堺市堺区 宇野 なずき

氣遣つて話すあなたの立て板に流れる水をせき止めている

堺市堺区 宇野 なずき

身に余る登山路なれど行きたいなあ

雲切新道仙人峠くもきりしんどう

函館市五稜郭町 くどうようこ

鳥とまる人になりたい 鳥ならば人にとまらぬ鳥になりたい

名古屋市千種区 朝羽 いむ

「最近おまへ少し生意気すぎるぞ」とピシッと言った。日記の中で

名古屋市昭和区 清水 良郎

「きょう限りあなたは土に還るのよ」カタコト応える夫の骨壺

仙台市青葉区 矢口つとむ

アジア圏をサラダボウルのようにつめた工場行きのバスは華やか

川崎市川崎区 成重 花鈴

いつからか観覧車とは見るものになってゆっくり私を見てる

横浜市神奈川区 能登谷 恵美子

ボランティアたちは食堂に集まりしみな同じシャンプーの匂い

東京都港区 中山 一朗

レプリカ金印燦と輝きて本物たちの静まりかえる

朝倉市甘木 石井 博幸

君の着たる服に居座るビーグルの不敵な笑みにつられて笑う

東京都武蔵野市 薬師寺 駿介

神の無き社の如しコンビニに不眠の街の人寄り集う

京都市左京区 松本 純江

内藤 明選

選者賞

左手で爪切る夫と目が合へり三面鏡の隅つこの方

浜松市中区 松浦富美子

佳作第一席

書き終へし長き手紙はボツにして花いつぱいの絵はがきにする

土浦市右綴 海老沢幸子

佳作第二席

ほととぎすてつぺんかけたかと鳴くといひし母の墓参の父若かりき

坂戸市西坂戸 鈴木ゆい子

佳作

速足の幼き児らの水筒は色とりどりのおしゃべりをして

牛久市中央 舟橋優香

風船に瓦斯をみたせばまたひとつ針で壊れる星が生まれる

和泉市のぞみ野 佐久間雄二郎

雉鳩の声に目覚めぬ川釣りに父と行きしはこんな日の朝

長岡市東新町 涌田和芳

郭公の声を真似る児童らに教師の一人も加はりて鳴く

村上市飯野 阿部昌彦

授乳しておむつを替えて落ち込んで母とは下を向くこと多し

合志市須屋 藤原さとこ

隊列を組み飛びたる白鳥に背筋を伸ばし手を高く振る

福島市上野寺 児玉正敏

口笛の音はとほくに落ちてゆく開襟シャツのひとが吹くとき

東京都板橋区 藤田美和子

王様のわたしに逆らう物はなし独り暮しの動線の下

南あわじ市榎列 山田恵子

きみの死をまだ知らざりきわが靴も靴そろへたる昨夜のわれも

八王子市めじろ台 向井和美

脱ぎ置きしカーディガン床にすべりたり疲れたよねと声かけ拾ふ

仙台市若林区 秋場祐美子

進学を迷ひてゐしか義弟の三日で途切れし日記出できぬ

高山市上川原町 和田操

ステージのライトの上のチェロ一台大海原を自在に泳ぐ

名古屋市天白区 三好ゆふ

生き延びるために予約を入れているこの先何が起こるか知らない

太宰府市朱雀 菊竹胡乃美

減点法の世界に生きる僕たちに赤鉛筆を二本ください

東京都豊島区 遠藤史博

家中の時計の電池入れ替えて父母亡きあとの時を進める

東京都杉並区 笹節子

いつからか観覧車とは見るものになつてゆつくり私を見てる

横浜市神奈川区 能登谷恵美子

ゆるゆると駅に車輛の到着す四年待ちたるウミネコを連れ

東京都港区 中山一朗

第四十四回全国短歌大会

日時 平成二十七年十月十七日(土曜日)

午後一時～五時

会場 神田錦町・学士会館

都営三田線・半蔵門線「神保町」下車

A9出口

または東京メトロ東西線の「竹橋」下車

予定 1:00 理事長挨拶

・入選作品選考経過報告

1:15 選評

2:30 入賞者表彰式(朝日新聞社賞・大会賞・選者賞)

3:00 質疑応答

―記念撮影―

3:45 特別選評Ⅱ外塚 喬・川野里子

4:45 閉会挨拶

入場無料 出詠の有無を問わず来場歓迎

第44回 全国短歌大会選歌集

平成27年10月17日発行

頒価 500円

発行所 現代歌人協会

理事長 佐佐木幸綱

東京都豊島区駒込1-35-4-502

〒170-0003 電話 03-3942-1287